

第1回市民協働による住民自治検討委員会 議事録

日時：令和7年2月18日（火）午後7時～午後9時

場所：大野市役所 2階 大会議室

1 開会

2 委員紹介

全18委員に委嘱状・任命書を交付。

3 市長あいさつ

大野市の最上位計画である第六次大野市総合計画で、2030年の将来像「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」に向かって、各種施策を市民の皆様と、また行政の協働で、積極的に進めている。

総合計画は行政だけの計画ではなく、まちづくりの主人公は皆さんお1人お1人だという発想の中で、計画づくりから一緒に入って、そして実施のところを協働でいろんなことをさせていただいている。

協働の中の様々なプレイヤーである皆様におかれましては、いろんな分野で、ご自身の強い部分で、好きな分野で、このまち、住んでいる地域をより良くしていこう、活性化させていこう、守っていこうと日々ご活動されている方々ばかりなので、市民の1人として本当に心から感謝を申し上げます。

市長に就任した後、いろんな団体の方々と意見交換をすると、実は団体の新しいメンバーが入ってこない、いつもいらっしゃる方々が決まった人になっているとか、担い手不足や市からのいろんな役割のなり手がいないという困りごとを聞くようになった。

そのような中で、各自治会にお願いしていたことを状況見ながら、取り止めたり、会議体についてもなるべく整理をするようなこともしているが、なかなか行き届かないという状況もある。

そのような中、そろそろ行動して、担い手不足といった地域課題を解決していくというような方向性の中で、こうしてプレイヤーの皆さんで話をする場を設けてはどうかということで今日を迎えた。

検討委員会の主人公はお集まりの方々お1人お1人である。そうした観点で、地域をより良くするために忌憚ないご意見をお寄せいただきたい。皆さんの中で自治の方向が決まってくると、そういった方向性に向かって、一緒に進んでいくことができる。

ぜひ、私たちの住んでいるこの大野市を、みんなでより良くしていくためには、
どういうふうに地域を動かしていくといいのかな、そんなことを考える場にこ
の検討委員会を使っていただけたら、本当にありがたい。

4 委員長・副委員長選出

委員長 和泉地区区長会 会長 朝日義治氏

副委員長 大野市社会福祉協議会 理事 前田廣子氏

(朝日委員長あいさつ)

大変な大きなテーマではあるが、ある程度の方向性を固めるのは容易ではな
いが、皆様のご意見と活発な議論によるところが大きい。

地域づくりの中においては、住民自治というのは柱になる事柄かなと思う。

災害のときには、その地域の弱点や課題、問題点が増える。地域力が落ちて
いるのを如実に感じる。高齢化や人口減少、若者がいないという状況はどの地
区も共通している。

地域で、ちょっとずつの力を集めて組織化できないかなということを感じた。

それぞれの9地区やいろんな団体の方も自分の方針案として取り組めるよう
なものをまとめていただければと思っているのでよろしくをお願いしたい。

(前田副委員長あいさつ)

近年、特に課題が大きくなってきて、今手を打たなければ5年先10年先はも
っと大きな課題になって、それを課題克服するのは難しいんだろうと思ってい
る。

課題を少しでもクリアできるかっていうところが、重要なので、委員長の補佐
をしながら頑張っていきたい。

5 議事

(1)、(2) 資料に基づき事務局から説明。(資料1 ページ～17 ページ)

(質疑応答)

委員：資料2-④市民協働について、もう少し詳しく説明をお願いしたい。今か
ら約10年あまり前に、市民協働指針が示されているが、背景とかそうい
うのは、今の話と全く同じだと思う。これまでどのように進めていたのか。
市民協働指針と検討委員会での方針案はどうなるのか。

事務局：平成24年3月に大野市市民協働指針を策定した後、協働の領域を進め
ている。結の故郷地域が輝く交付金などの交付金で地域の世代間交流
や地域の課題解決、地域の活性化につながる事業を市としても支援を
しながら協働で進めている。協働で進めてきたことも、大切にしながら、

さらに今後、住民自治の仕組みをどうしていくといいのかを検討委員会で考えていきたい。住民自治の部分であるため、行政の方からこうしようと言えない部分もある。

(3) 資料に基づき事務局から説明。(資料18ページ)

(各委員がふせんに意見を記入)

(70個の意見を10項目に分類)

(質疑応答)

委員長：担い手のところが一番多いが、この意見はどんな団体からも聞く。私見になるが、自分がその立場になったら次に誰にやってもらうかを最初に考えるのが、組織論の原則である。それが、組織が存続するための最大のポイントである。後継者を育てたり、後継者を指名する。担い手不足は本当に深刻である。

副委員長：課題ばかりが自分の中に落とし込まれてしまい、大野って素晴らしいなというところを忘れてしまうこともあるが、やはり若い世代はまだまだ良いイメージもたくさん持っていると思う。そういう部分からも課題に向けてアプローチできるかなと思う。

委員：私の地区で行われているイベント（木瓜川 ダックレース）は大野市に広まって、親子や子どもがたくさん参加してくれている。大野市全体でも何か子どもを取り込んだ行事をやると、地域の活動力が上がってくると思う。私の町内も育成会がなくなった。大野市も将来的に人口が2万人を下回る推計である。市の行政としては成り立たなくなる人口である。そういうことも考えて、子どもを大事に育てていくような環境を整えていくことを、みんなで考えていただくとありがたい。

委員：団体と行政が対等なパートナーシップを取って事業を実施した。商品とかは、補助金は使えないので、自分たちの足でいろいろ企業を回ってお金を集めてくる。備品関係もお金が必要である。初期投資はお金かかるところも、補助金でみてもらっている。そういったところで、行政のバックアップがあってできた。また、地域の他の団体のお手伝いもあって成り立っている。担い手のところで、新しい人を入れていけないといけない。大野市には、地域を盛り上げようとしてる団体がある。地域のために頑張ろうっていう若者を、次につなげたいなという思いでやっている。

委員：市民スポーツ大会は、8地区の対抗制をとっているが、どの地区も課題と選手集めに相当苦労されている。数年前に総合得点制を廃止したが、それでもやっぱり参加者が増えない。各地区においては参加者が集まるが、市

のスポーツ大会になると、途端に参加者が集まらないという現状が非常に大きな課題となっている。地区の陸上競技会も、レクレーション化を図って参加しやすい雰囲気づくりにしているが、それでもなかなか集まらない。ジェネレーションギャップがあり、若い世代と高齢者の人の世代での考え方がある。

委員：わたしたちの団体は、地区に住んでいたり、関わりのある若者が主体となって、子どもに向けたイベントとかを行うことが多い。地区の小学校が廃校になり、そんな中で子どもたちがその地区から離れてしまうことが加速するのではないかっていう思いがあり、公民館を使用して、いろんなイベントをしている。小学校がなくなってしまうと、子どもたちが地区の良さや自然を分からなくなるんじゃないかなって思いもある。課題としては、SNSを使って案内しても、参加してくれる方が決まってしまうこと。イベントによっては全然人が来ないとかもあるので、そこは今後ちょっと工夫していかないといけないと思っている。

委員：色んな団体と一緒にワークショップやイベントをしている。都市部の学生を受け入れて、大野をフィールドとした授業をしたりしている。都市部の学生から見た大野とかのよさというのは、皆さんが意外と課題だと思われることが逆に良さだったりするのかなあというところがある。都市部に住む学生が、短期間、例えば冬休みだったりとか、春休みだったりを利用してきたときに、地域の人と一緒に雪かきをするというのは、なかなか都市部では味わえない経験ですごく感動する出来事なんじゃないかなあと思ったりする。地区ごとの、お祭りなどの楽しめるような文化であったりとか、習慣だったりっていうのはまだまだ残っているかな。そこは、良いところでもあり、課題でもあるところかなと実感している。

事務局：2回目の検討委員会は、4月の中旬ぐらいに、開催したいと考えている。今日出された意見を改めて分類させてもらって出た意見の中から、課題に対して、他の地域での対応の事例や国の支援制度を紹介したい。その中で、うまくまとまれば、大野市としての方向性を検討したい。3回目、4回目を経まして大体4回目を9月ぐらいを目途に開催したい。

委員：自治検討委員会っていうのは、自治に対するビジョンを、市民目線で考えていくというのが1つの切り口かと思うが、その将来は、例えば、10年後を想定するとか、20年後を想定するとか、来年以降ずっと想定するとか、いろんなとらえ方があると思うが、どの辺を見据えるのか。

事務局：全国の事例の中で、この自治体のこの取り組みはここを見据えてやっている。ここは毎年こういうことを見直しているとか、そういったサイク

ルの事例も、一緒に紹介しながら、大野市がどういうスタイルや方向性を目指すのか、話し合っていたきたい。

委員：大野市は、当初、公民館のあり方自体から考えるということで、少し話があったかと思う。そういった中で、こういった課題も含めて、公民館自体を館長派遣を含めてどうするということがあったかと思う。そのあと、全くそれについての話が進んでなかったと思う。ですから、今日またそういったことについて、少し踏み込んだ話があるのかなと思い、期待してきた。何か、体裁だけの形だけに戻り、課題については、どの地区も同じだと思う。少子高齢化の中でいろんな役所が、考えておられることは同じかと思う。前からの説明より市の説明が、以前の説明とちょっと違うなあと感じる。

事務局：以前に一回、皆さんで一回考えていきたいと思いますところを進めてきたところがあったかと思うが、当時の状況ではまだ各地区においてそこまで声が少なかったのかなと思う。議会の方からも今一度状況も前よりもさらに進んでいくのではないかという所もあり、今このタイミングで改めて検討していくことになった。それにあたっては、もう一度皆さんにお集まりいただき、それぞれの団体、それぞれの立場で、今どういう風に地域づくりの面で課題に関することなどを、まずは皆さんで共有したい。これに対してはどのような風に進んでいくと良いのかを、第2回目から皆様にいろいろと検討していただきたい。こちらの方から情報を提供するので、より良くしていくためにはどうすべきかということをご意見いただきたいという風に考えている。

委員：分かりました。今言われたようにもう一回目的に戻ってということだが、この説明を聞いても具体的な2回3回4回と重ねていく中でほんわりとしたようなそれぞれの地区で上がっている色んな課題、それをこういう形でとらえるのか、地区だけの課題としてとらえるのか、やはり大野市全体のことを考えたやはり市の協力が必要である。これはやはり市の方から踏み込んだ提案をある程度しながら我々も考えさせていただくとありがたいと思う。

委員長：地域づくりの拠点として公民館があつて。地域づくりの話をするときに公民館のあり方が出てこないのはなぜなのかということだと思う。その点も含めて2回目以降またできればと思う。

委員：こういう風に進めたいので、あらかじめこういったことについて意見を集約したいといった、もうちょっと会議の深度が深くなるようなアナウンスを求めたいと思う。

事務局：次回の会議につきましても、当日意見を出していただけるように、余裕を持った案内をさせていただく。

委員：今回この検討委員会では、そういった現状を皆さんに知っていただいて、今、各地域でいろんなこと頑張っているが、10年たったら高齢社会になってきてできない、っていう時代がくる中で、一度洗い出しをして、では、どうしようっていうのを話し合っていただく機会である。行政と市民協働でやっていきたいと思っている。

6 閉会（前田副委員長あいさつ）

委員の皆様からご意見をいただき、ありがたい。

課題を掘り起こすことで課題を共有することができた。意見交換の中で素晴らしい意見、若い方々が頑張っているといったいろんな前向きな活動をこれまで知らなかった。

私たちが課題と思っているところは都会から見たら、それも良いところで、私たちは本当に忘れてると思う。若い方のご意見を頂きながら、まだまだ希望はあると私は感じている。

形というものに向かってこれから進んでいくためにご協力をお願いしたい。

以上